

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：エバーグリーン潮来	種別：就労継続支援A型	
代表者氏名：島田 直明	定員（利用人数）：	20 名
所在地：〒311-2423 茨城県潮来市日の出6-11-13		
TEL：0299-77-7141	ホームページ： https://evergreenkamusu.com/info_kamusu/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 令和3年2月1日		
経営法人・設置法人（法人名等）：株式会社スマイル		
職員数	常勤職員： 6 名	非常勤職員： 1 名
専門職員	（専門職の名称） 名	
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	6室	バリアフリー

③理念・基本方針

働くことを通じて、やりがいを見出し、仕事の喜びを体感することで、社会人として育む。

④施設・事業所の特徴的な取組

就業センター・県の労働政策課の連携のおかげで就職に向けての活動が豊富。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 6 年 6 月 10 日（契約日）～ 令和 6 年 10 月 28 日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0 回（平成 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

法人では職員の適正に合った年間研修計画を策定し、研修を通じて組織として理解が深まる取り組みが行われている

・サービスの質の向上への取り組みとして、法人では年間の「社会福祉事業従事者研修月別予定表」を作成し、職員の適正に合った研修をピックアップし、全職員が年間数回の外部研修に参加できるよう取り組んでいる。また、研修受講後は研修報告書を作成し、必要に応じて伝達研修を行ったり、或いは研修報告書や研修資料を閲覧するなど、組織として理解が深まる取り組みが行われている。

利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援に取り組んでいる

・事業所では利用者一人ひとりの意向や要望を尊重した支援に取り組みながら、できる限り一般就労に就くことを目指している。特に、利用者が希望している作業や得意な作業で自信をもって意欲的に作業に参加できるように努めている。昨年度は、地域のスーパーマーケット、一般事務、製造現場など9名の一般就労を輩出したことが報告されている。各種の作業を通して、本人の得意を引き出し能力向上につなげている。また、一般就労者に対しては就業センターや県の労働政策課と連携し、6か月間は毎月職場を訪問して双方からヒアリングを行い、サポートすることに力を入れている。

◇改善を求められる点

中・長期計画や単年度事業計画の策定を行い、職員や利用者のニーズを取り入れた具体的な計画の策定が求められる

・法人や事業所において中・長期計画や単年度事業計画が策定されていない。今後は、中・長期的な視点において人材確保、職員教育、リーダー層の育成、組織や仕組みづくり、利用者支援の質の向上、ICT化など、中・長期的な視点から、SWOT分析などを活用した具体的な法人・事業所のビジョンを策定されることが求められる。さらに、単年度事業計画では、中・長期計画と連動した計画策定を意識し、次に挙げるような具体的な骨子、①法人や事業所の運営方針、②事業の計画・目標、③利用者の支援方針、④職員の採用計画・組織目標、⑤人材育成、⑥運営上のリスク管理など、職員や利用者のニーズを取り入れた具体的な計画の策定が求められる。

定期的にあセスメントや個別支援計画の評価・見直しを行うことが望まれる

・アセスメントには、基本情報、障害や医療に関する状況、社会とのつながり、本人の意向、生活歴、就業歴、通勤手段、ADLなどが明示されている。個別支援計画には、利用目的、具体的なサービス内容、支援課題などが明記されており、個々の書式は概ね適切な内容になっていることがうかがえる。また、利用者・サービス管理責任者・担当の支援職員・行政の担当者などが出席のもとにサービス担当者会議を開催して、達成や進捗状況を共有している。さらに、達成や進捗、心身状況の変化などを抽出して各書式の内容を見直すことも望まれる。支援計画のPDCAサイクルを確立することに取り組まれない。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

決まった事をそのままやっていたが、その後も定期的に行なった方が良い事、気を付けるべきことを評価を受けて理解できた。

現状維持をしていた事もこれから必要な事への理解にも繋がった。

⑧評価細目の第三者評価結果（別紙）